

# 家庭教育通信

「家庭教育通信」は子ども達のすこやかな成長を願い、よりよい家庭教育について皆で考え行動することを目指して、白井市教育委員会が情報を発信するものです。

V01.14

発行：白井市教育委員会 2007年12月  
監修：白井市家庭教育講座講師 富澤 裕子  
お問い合わせ：白井市教育委員会 教育部 生涯学習課  
TEL：047(492)1111

冬休みに入り、大掃除や新年の準備に忙しくなってきたある日、母親の真理さんは8才の玲君と10才の真菜ちゃんを連れて買い物に出かけました。買い物はスムーズに終わり、楽しく帰りのバスに乗りました。真菜ちゃんが一番前の席に座ったので、真理さんは玲君と少し後ろの席に並んで座ろうとしました。けれど玲君は通路に立って口を尖らせて下を向いています。真理さんは、他の乗客の邪魔になることが気になります。玲君が両手に袋を持っているので発車すれば転ぶのではないかと心配でした。「邪魔になるでしょう。危ないから早く座りなさい」と言うと、玲君はしぶしぶ席につきました。座っても足をバタつかせたり真理さんの腕に頭を押しつけてきます。「やめて。もう降りるわよ。ブザーを押したら・・・」ととりなしても下を向いて頭を振るばかりです。家に着いても気に入っているはずの本も床に転がっています。食品を冷蔵庫に収めながら夕飯のしたくにとりかかる真理さんに玲君は、「つまんなーい」「あそんで」と付きまどってきます。



こんな時、あなたが真理さんならばどうしますか？

多くの大人は、社会のマナーを教えなくてはいけないと考えて、『バスに乗るときは、人に迷惑をかけるようなことをするべきではない』と諭したり、『いつまでグズグズ言っているの、男のくせに。お母さんは忙しいのよ。一人で遊びなさい』と怒りをぶついたりしてしまいます。親は子どものために教えている・叱っていると思っています。けれどこの言い方で子どもに伝わるのは『そんなことをするあなたは、ダメだ』『そんなあなたは、嫌いだ』『あなたは、間違っている』という非難否定のあなたメッセージが言葉だけでなく、親の態度や語調、表情から伝わります。ですから、子どもが反抗的になったりいじけたりして、家の中の雰囲気は、子どもがぐずっているだけの時以上に悪くなってしまうのです。親は、子どもを非難否定したいのではなく、マナーを教えたり、親自身が困ること、いやなことを止めてほしいと伝えたいだけではないでしょうか。気づかないうちに、子どもを傷つけているとは、悲しいことです。

このような時、親も子も納得しながら行動を変え、後にいやな思いが残りにくい対応が二つあります。

先ず一つ目は、親が自分の気持ちや考えを伝える方法です。子どもを否定非難するのではなく、思いを伝えるわたしメッセージです。「夕飯の支度をしている時に遊ぼうと言って

服を引っ張られると（子どもが実際にした行動をそのまま）包丁でケガをするのではないかと  
って（親への影響を具体的に）ハラハラするの（親の感情を率直に）」「バスで通路に立っていると  
（子どもが実際にした行動をそのまま）他の人の邪魔になるし、あなたが転ぶのではないかと  
って（周囲や本人への影響を具体的に）心配なの（親の感情を率直に）」というように、何がどうし  
ていやなのかを伝える方法です。こうした伝え方のほうが子どもに親の感情やその理由が  
分かりやすいので、子どもは親の思いを理解して行動を変え易くなるのです。

わたしメッセージは、親の気持ちに焦点を当てたものです。親自身が否定的な感情を持  
っていることに重きを置いています。玲君がした行動（通路に立って口を尖らせる。足をバタつ  
かせる。下を向いて頭を振る。泣き出しそう。「つまんなーい」「あそんで」と付きまとう）を親が受け入  
れられないのです。けれど、この時、誰が一番困ったりいやな思いをしているのでしょうか。  
玲君ではないでしょうか。否定的な感情があるから、すねているのです。

もう一つは、玲君の感情に視点を当てた対応法です。玲君は何かいやなことがあったか  
らそのような行動をしたのではないかと真理さんは考えたのです。玲君の行動は真理さん  
にとって困ったものではあるけれど、それ以上に玲君に不満があるのではないかと思い、  
真理さんは理由を聴いてみました。

母：バスで一番前に座れなかったから、機嫌が悪いんだね（母がくみ取った気持ちを確認する）

玲：だって、オレも座ろうと思ったのに、マー（姉）が座っちゃったんだもん

母：マーが座れて、玲が座れなかったのが悔しいんだ。（子の言い分や気持ちを確認する）

でも、玲が先に乗ったのに座らなかったから、マーが座ったのよ。

玲：だって、一つしか前の席が空いていなかったから、オレだけ座ったらマーに悪いと  
思ったから座らなかったのに、マーは座っちゃうんだもん。

母：そっかそっか。自分だけ座ったら悪いと思って我慢したのに、それをマーが気づか  
なかったんで怒っているんだね。（子の言い分や気持ちを確認する）

玲：そう。

母：分かったよ。ママも知らないで怒ってごめんね。今度は、その時に話してね。

と言って、真菜ちゃんに事情を説明しました。

真菜：ありがとう。今度バスに乗って、一番前が空いていたら、一つしかなくても玲が座  
っていいよ。

この後、二人は急に仲良く遊び始めました。そして、真理さんはバスに乗るときのマナ  
ーを二人に穏やかに教えたそうです。

子どもの行動の奥にあるやさしさは、聞いてみないと分かりません。心がふれあい温か  
くなる会話を、寒い時だからこそ、忙しい時だからこそ大切にしてみませんか。

## 一緒に考えてみませんか？

家庭教育の悩みや不安について相談するには、

白井市教育センター室 ☎047-492-2301

千葉県子どもと親のサポートセンター ☎0120-415-446

千葉県総合教育センター特別支援教育部 ☎043-227-1166

（障害のある・あるかもしれない子どもの養育や教育について）

養育上の悩みや非行・虐待など児童の福祉相談するには、

中央児童相談所 ☎043-253-4101

（子ども・家族110番）

白井市家庭児童相談室 ☎047-497-3477

（社福）千葉いのちの電話 ☎043-227-3900

（ひとりぼっちで悩まずに……24時間・年中無休）

子どもの非行などを相談するには、

少年センター（千葉県警）☎0120-783-497

県内の相談場所